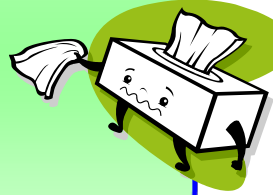




Tuuli

トゥーリ

2013年10月15日発行



「寒暖差アレルギー」という耳慣れない言葉がテレビなどで聞かれます。季節の変わり目に、温度差が激しくなるとアレルギーの症状が出ることを指します。特に今年のように日中暑かったり、朝晩急に冷え込んだりすると鼻水が出たり、喘息のような咳が続いたり、頭痛がしたりという体の不調から、風邪のはじまりかと思いがちです。でも実はアレルギーなのだそうです。予防は体を冷やさないことで、昔ながらの乾布摩擦も有効かもしれません。ちょうど夏の疲れが出る頃です。疲れた時には体を休めることも大切です。どうぞご自身の体をいたわりながらお元気でお過ごしください。



至誠学舎立川合同バザー 終了のお礼



今年のバザーは晴天に恵まれすぎたかもしれません。10月も半ばだというのに30度を超える真夏日となりました。主催者発表(?)では来場者2,000名で、バザーに出品する品物の値付けの3日間と、バザーの当日にお手伝いいただいたボランティアさんの合計は120名でした。(こちらは正確な数です!) 本当に大勢の皆様にお手伝いいただき、誠にありがとうございました。

暑さのため、ボランティアさん方は日陰を探してくださったり、麦わら帽子を用意してくださったりと大変でした。途中少し気分が悪くなられたお年寄りもいらっしゃったようです。担当のボランティアさんからは翌日に容態を心配するメールや電話を頂戴しました。本当に細やかにご配慮いただきありがとうございました。

利用者の中にはこの日を待ちかねてたくさんの買い物をなさり、その買ったものを本当にうれしそうに見せてくださった方もいらっしゃいました。バザー終了後、2時30分からボランティアさんの慰労会にも大勢の方がご出席くださりありがとうございました。

ぜひ皆様方のご意見ご感想をお寄せください。次年度に活かしたいと思います。

特養ボランティア活動報告会開催のお知らせ

特養の「ボランティア活動報告会」の日程が決まりました。今年は、月に1度、各フロアを回って手品を披露してくださっている「鈴の会」の代表の鈴木文さんがお話しくださいます。

以前Tuuliでもご紹介いたしました立川市奇術愛好会(代表小井節子氏)というグループの一員として、H.21年から至誠ホームで奇術を披露してくださっていました。現在はそのメンバーのうち、至誠ホームに何か関わりのある方たちが、独自のグループ「鈴の会」を立ち上げ、ホームで活動してくださっています。

鈴木さんはボランティア活動はもちろんのこと、介護者としても新しい形でご家族を介護しておられます。その内容についてもお話くださる予定です。きっとそのお話はボランティアの皆様にも参考になるのではないかと思います。また仲間の皆様と手品もご披露くださるそうです。どうぞお楽しみに!

そのあと、ボランティアの皆様、特養利用者のご家族、それに職員をまじえ、一緒に楽しいお茶の時間を過ごしたいと思います。どうぞ皆様お誘い合わせの上、ご参加くださいますようお願いいたします。

- 日時 : 平成25年11月6日(水) 14:00~15:30
- 場所 : センター4階 研修室
- 内容 : ボランティア活動の発表(鈴の会代表 鈴木 文氏)
懇親会
- 参加費 : 無料
- 申込み : ボランティアコーナーまでお申し込みください。





付き添いボランティアさん募集

特養2階の外出活動の一環で、羽村動物園に行きます。
ホームから動物園までは車で移動します。車の中での見守りと、動物園の中では利用者の方1対1の車いす介助をお願いします。とても良い動物園なので一緒に楽しんでいただけたらと思います。入居者の皆さんから動物園に行きたいとの要望を受けての企画です。どうぞお力をお貸しください。

- ◆日時：10月20日(日) 9時30分至誠ホーム集合 16時帰園予定
 - ◆外出先：羽村動物園
 - ◆移動手段：ホームから車
 - ◆募集人数：3名(男女は問いません)
 - ◆活動内容：利用者の付添と見守り
- ※雨天の場合は一部内容を変更して行う予定です。



朝の体操の送迎ボランティアさん募集



毎朝、至誠ホームでは朝の9時05分よりけやき広場で朝の体操を行っています。歴史は古く、平成7年からは冬も行うようになり、現在も一年を通して行っています。朝、外の良い空気を吸うことで、冬場の感染症の発生が抑えられています。でも何より、一日に一度外に出ることは入居者の方々にとって大きな喜びです。スオミケアハウスや和光ホーム、せせらぎの方々のご協力のおかげで、毎日特養からは大勢の皆さんが参加されるようになりました。スオミのグループホームでもお手伝いいただける方を募集します。どうぞお力をお貸しください。

- ◆募集人数：2～3名
- ◆活動時間：8時50分から9時30分



失語症—その2— 言えないけれどわかっているの

前回に引き続き失語症について話をさせていただこうと思います。では、まず失語症の「聞く」と「話す」に関する事です。

失語症になると、上手く言葉が出なくなったり、言葉が出て意味や音が違って伝わりにくくなります。なかなか伝えられないので笑ってごまかしたり、とりあえず頷いてしまったり・・・。なので「わかっていないのかな？」と誤解されてしまうこともあります。でも、「言葉で話せない」と「相手の話が理解できない」は別の事です。

個人差や失語症のタイプによる差はありますが、失語症の方は伝え方を工夫すれば「完璧！」とはいかないまでもコミュニケーションはとれます。

例えば「ミカン」を見せて「これは何ですか？」と聞いても「あーあー」とか「リンゴ」と答えてしまう方でも、いくつか物を並べて「ミカンはどれですか？」と聞くと「ミカン」を選べます。失語症の方は、決して言葉がわかっていないのではなく、わかっているけど伝える方法が限定されているのです。

ではどうしたらいいのでしょうか？

- ◆ポイント(1)なるべく短い文で伝える。

例 ○「今日の洋服はどれにしますか？スカートですか？ズボンですか？どちらの色にしましょうか？」
×「今日の洋服は赤いスカートと青いスカート、それとも緑のズボンや黒いズボンがいいですか？」

- ◆ポイント(2)選択肢を示す。

例「A、B、Cどれがいいですか」

- ◆ポイント(3)「はい(頷く)」「いいえ(首を振る)」で答えられるような質問をする。

- ◆ポイント(4)確認をとる。(「～ということでもいいですか?」など)

- ◆ポイント(5)失語症者の身振り手振りにも注意する。

- ◆ポイント(6)時間に余裕をもって接する。

※選択肢の表現は言葉、文字、絵、写真、実物といろいろありますが、その人がわかりやすいものを選びましょう。(難易度は 難←言葉<文字<絵<写真<実物→易 となります。)

では、今回は「読む」と「書く」についてです。

(生活アクティビティ 笈川)

発行 社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠ホーム 統括事務局 企画調整 ボランティア担当 寺澤・加藤

連絡先 〒190-0022 東京都立川市錦町6-28-15 Tel: 042-527-0035 Fax: 042-527-2646
E-mail: shisei-volunteer@shisei.or.jp HP: <http://www.shisei.or.jp>